

国際交流 NEWS

2021年度 東大阪市公費国内留学研修 報告

2021年度の公費短期留学はニュージーランド(オークランド)での実施を予定しておりましたが、コロナ禍の影響を受け、中止となりました。その代替として3月6日(日)から一週間、アチーブイングリッシュキャンプ(山梨県富士山麓の河口湖周辺)にて国内留学研修を実施致しました。

自分の将来の夢を再確認する事が出来た！

3-2 坂 莉緒奈(東大阪市立高井田中学校出身)

最初、海外留学がなくなり本当にかっかりしていた私達に何とかして勉強する機会を与えたいという思いから教育委員会を始め、たくさんの人たちが力を尽くしてくださったおかげで、国内ですが留学することが出来ました。そして、私はこの国内留学で3つ学ぶことが出来たと考えています。まず、1つ目は、英語を学ぶ楽しさを学びました。外国の先生と勉強をするとき、まるで勉強していると感じさせないくらい気楽にできる授業でした。そして1日目の授業が終わった後、外国人の先生から気を張りすぎると、楽しいと思いながら授業を受けても段々と楽しいという気持ちを無くしてしまうと言われました。私は頑張ろうとしすぎて空回っているのだと気づき、2日目からリラックスして授業を受けると自然に楽しいという気持ちで授業することが出来ました。2つ目は人と接することの重要性です。この短期留学は必ずと言ってもいいほど自分から話さないといけない場面が多くありました。私は初対面の人と話すのが苦手で、自分から話すというのがとても苦手でした。しかし、その夜に1番仲の良い友だちが自分から話すことで、大学生になっても自分から人に話をすることが出来る事、自分の意見を相手に伝えることができる事を教えてもらいました。外国人の先生にも自分の意見を伝えることが出来たので自分から相手と話すことは大切だと感じました。3つ目は自分の将来について深く考える事が出来た事です。私自身、それほど将来のことについて考えてはいませんでした。1週間外国人の先生の授業を受けていると、先生の授業には明確さがあり、かつ分かりやすい説明が多いと感じました。そのことから私は現在、自分で勉強している簿記と英語を使ってグローバル組織人事コンサルタントになりたいと強く思いました。この職業は明確な答えが必要で、更に海外へ行けば英語で説明をしないと行けないのですが、今回の国内留学でもっとその職業について知りたいと強く思いました。

今回この国内留学を通して3つの事柄を学ぶ事が出来たと感じています。今後大学に通う時、外国人の先生が私にかけてくれた言葉を思い出して頑張りたいと思います。そして、改めて自分の将来の夢を再確認する事が出来たのでその夢に向かって勉強し続けたいと思います。

伝えることの大切さを学びました。

3-2 中井 優花(大東市立深野中学校出身)

1週間オールイングリッシュのみという事で一言も話が出来ないような気がして、出発の日、私はとても不安でした。当日は新大阪駅まで3組の先生や教育委員会の方がお見送りに来てくださり、この研修への期待を再確認しました。約5時間の移動後、美しい富士山が見える河口湖のほとりに私たちの泊まるキャンパスに着きました。その建物は出来たばかりでとても綺麗で印象が良かったです。次の日から本格的に授業が始まりました。朝8時から夜の6時までみっちり英語を学習しました。私たちの先生



はJoan先生というフィリピン人の先生で私たちが考えた英語で伝えたことを理解してくださり、正しい英語の使い方を教えてくださいました。英会話をする機会が少なく、話すことに苦手意識のあった私にとっては、自信になりました。オールイングリッシュなので、学んだことをすぐに友達や先生との会話で確認できたことが良かったです。元々はニュージーランドに行くつもりで応募しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で時期が延期となり、国内に変わってしまった時は残念だと思いましたが、今回の場所は語学を勉強する環境としてベストでした。何より友達が隣にいてくれることで安心でしたし、心強かったです。女子4人で同じ部屋で寝泊まりしたので学校での付き合いとは違う一面がみられ、友達のいいところや個性がしっかり見えたことで、より一層仲良くなれたことが嬉しかったです。

この研修を通して伝えることの大切さを学びました。自分の思いを英語で相手に伝えることが出来たことに嬉しく思い、この研修があったからこそ、その体験ができました。春から新社会人として働く私が1つでも自分の自信として自慢できる経験をさせてもらったこと、本当にありがとうございました。

感謝の気持ちでいっぱいです！

3-3 酒向 初実(八尾市立曙川南中学校出身)

私は3月6日から13日の約1週間、国内留学研修に行かせていただきました。今こういった厳しい状況の中であるのに私たちのためにこのような企画をしてくださったのは感謝の気持ちでいっぱいです。行けるとなったときはとても楽しみだったのですが、ずっと日本語を使わずに英語だけで生活するというのを聞き、私はやっていけるのかと不安な気持ちもありました。午前中に4時間授業を受け、また午後に4時間授業を受けるという英語のスキルを伸ばすのに充実したスケジュールでした。しかし、こんなに英語の授業を受けるというのは初めてだったこともあり、新鮮に感じる反面、もちろんハードにも感じました。また、私が特に苦手だったDebateという授業でトピックが難しくてよくわからなかったり、なかなか考えも思い浮かばなかったりして、意見を全然出すことができませんでした。それに比べて、周りの皆は積極的に発言をしているので置いていかれている気がし、さらにしんどくなりました。しかし、友達や先生に励ましの言葉をかけてもらったことで最後までやりきろうと思いました。それ以降は友達や先生が優しく接してくださり、楽しませてくれたおかげで少しずつ楽しくなっていました。私の苦手だったDebateの授業では少し勇気を出してみようと思い、自分の意見を発言することができました。そのときは本当に嬉しかったし、達成感もありました。そのことから、よくわからなくても、上手く言えなくても、少しの勇気を出して積極的に発言してみることが大切なことだと学びました。あっという間に最終日となり、最後の授業だと思うと少し寂しく感じていました。

最初はこのプログラムが厳しいと思いながら始まったけれど、最終的には多くのことを学ぶことができ、参加させていただいてよかったなと心の底から思います。このようなプログラムに携わってくださった方々には本当に感謝しきれないです。私は恩返しとして大学でこの経験を活かし、英語を含め何事にも頑張りたいと思います。



最初は不安でした。最終日には帰りたくないと思うほど、楽しい毎日でした。

この経験を通して、将来の夢や大学に向けて努力していこうと思います！

3-3 田中 翔隆(大東市立住道中学校)

私は山梨県にある Achieve English Camp に行きました。そこには日本語が喋れず英語しか喋ることができないという環境があり、ネイティブスピーカー、スタッフ、そして友人や付き添いの先生にまでも英語で話すというルールがあり、英語を学ぶには最適な環境で 5 日間公費留学として勉強をしてきました。最初は不安と英語を伸ばすことができるという期待の両面がありました。上手く話せるか、上手く発音できるか、とても不安でした。また、朝 8 時から授業が始まるので、朝起きが苦手な私にとっては大変でした。授業は発音に始まりビルドアップ、面接の練習や色々な場面の描写を適切にするといったものがカリキュラムに組み込まれており、日新高校では詳しくできないような授業内容でとても楽しかったです。私のクラスではネイティブスピーカーが生徒を当て、答えさせるという授業体制だったので、常に緊張感があり、英語力を向上させるうえで最高の環境でした。初日は苦しい、もう嫌だと思ふこともありましたが、2 日目からは授業の流れを掴んだため、どちらかと言うともう少しくらいなら出来るかもという心持ちに変わっていました。Achieve English camp で過ごした 5 日間では多様な熟語、難しい単語を簡単な単語に変える言い換えや正しい発音を学ぶことができ、5 日間英語だけを聞き続けるとリスニング力の向上にも繋がり、少し自分に対して自信を持てるようになりました。初日にあった不安は最終日には無くなっていて、むしろ寂しいという気持ちになり、帰りたくないに変わっていました。

短い期間でしたが、ニュージーランドへ行けなくて残念だった、ではなくむしろ achieve English camp で良かったと思えるほど濃い内容でした。僕はこの経験を通して将来の夢や大学に向けて努力していこうと思います。

今回の経験は、英語を学ぶ上で間違いなく貴重な時間であったと確信しています。

3-3 竹原 顕三(大東市立諸福中学校出身)

私は公費留学で、山梨県にある achieve English キャンプに国内留学しました。achieve English キャンプでは、英語のみしか最初は話す事が出来ず、日本語を話すのは禁止となっていました。いよいよ英語だけで生活することになると思い、緊張していました。最初に想像していたのは、日新の英語科にもある英会話の授業のようなものだと思っていました。しかし、実際は思っていた以上にレベルの高い英語の勉強でした。主な内容は語彙、イラストを見て英語で表現する問題、スピーチの練習など、英語で会話するのを前提としたものが多かった様に思いました。午前 8 時から夕方 6 時までであったので、まさに一日中英語漬けでした。英語だけなのでかなりハードで、特に辛いのは言葉を表現するのに単語が出てこないことです。言いたいことをうまく言えないのはもどかしかったです。とはいえ、3 日目以降には専属の先生のサポートもあって、ある程度は英語で伝えることができました。この留学中に最も身についたのはリスニングであると考えています。英語を聞いていると同じ単語を使う機会がかなり多くて、慣れてくると何を話そうとしているのか大体わかってきた様に感じます。簡単な単語を使った会話であるならば、「間違いなく理解できる」と自信がついた様に思います。食事や就寝の時でも自然とまでは言いませんが、日本語を使わなくてもコミュニケーションが取れることを実感しました。普段通りのやりとりをいつの間にか出来る様になっていた事に自分でも成長を感じられ、嬉しく思いました。

今回のこの経験は、英語を学ぶ上では間違いなく貴重な時間であったと確信を持てます。ネイティブの会話まで遠いですが、今回の経験を活かして、今後も少しずつでも前進出来るよう努力したいとおもいます。

英語がより好きになった 1 週間でした！

3-3 仲森 愛純(東大阪市立孔舎衛中学校出身)

アチーブイングリッシュキャンプの中では、日本語を話してはいけないというルールがあり、本当に戸惑い、自分の考えをうまく英語で伝えることができなくて、最初はすごく悔しかったです。改めて自分自身の英語力の無さを痛感しました。しかし、3 日目くらいから考えを人に伝えることや人の考えを聞くことができるようになって、授業がだんだん楽しくなっていました。毎日英語しか話せないという状況に慣れて、心に余裕が生まれたからこそ、どんどん授業が楽しく感じていったのかなと思います。毎日の授業で単語の発音の違いを教えていただいたり、単語の勉強をしたり英検で出題される、絵を見て物語を発展させていく問題もやりました。しかしながら、どの授業も普段とは違うやり方や視点で、日本語を通さなくても英語の学習はできるし、「楽しいな」と毎日実感していました。毎日の授業で唯一、ディベートをする時間が一番苦手でした。お題も「食材を選ぶときに国内のものか、外国のものか」や「これからの日本の人口は増加していくか」といった難しいお題ばかりで、最初は反対でも話をしていくうちに賛成の意見に納得してしまい、日本語では意見が浮かんでも、英語になおせず、反論できなくて悔しい思いをしたので、最終日まで苦手だなあという気持ちでいっぱいでした。毎日の授業の終わりに、作文を考える時間がありました。内容は、これからの 3 年間の目標と、思い出の食べ物の 2 つでした。両方 2 日間かけて内容を考え、それから添削して頂いた後、内容を覚えてみんなの前でスピーチをしました。この作文も、今まで書いてきたものよりすごく難しく感じましたし、添削して頂いたものは見たことのない熟語があり、後から調べてどんどん英語に対する知識量が増えていったような気がして凄く嬉しかったです。この 1 週間を通して、英語力自体がすごく増した気がし、英語に対する考え方もすごく変わったと思います。行く前は 1 週間英語だけで生活できるわけがないと思っていたし、本当に不安でしたが、帰ってきて今考えると、行ってよかったなと思います。英語がより好きになった 1 週間でした。また機会があれば、もっと単語の勉強をしていきたいなと思います。国外に行けなかったことは本当に悲しいですが、何より国内という形でも公費留学に行かせて頂くことができ本当に感謝しています。本当に楽しく、自分にとって有意義な 1 週間でした。

